

ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンはお早めに

2010.12.06

函館近郊のインフルエンザは1週間の1医療機関あたりのインフルエンザの患者さんが10名を超え、本格的な流行シーズンに入りました。ほとんどの医療機関ではインフルエンザワクチンの新規の受付は終了していると思います。この時期になって慌ててするより、かかりつけで計画的にワクチン接種するよう、来年こそ気をつけてくださいね。

国の補正予算が成立して、今年度と来年度の2年間限定で、子宮頸癌予防ワクチン、ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンに対する助成が行われることが決まりました。しかし、この予算の執行のためには、少なくとも市町村議会での補正予算の成立と、市町村分の予算の確保が必要です。このため、これまで補助をしてこなかった市町村では現在、議会への議案の作成、予算計上の対策などがされているものと思います。聞いた話では、早いところでは1月中の開始が出来るよう準備を進めているところもあるようですが、概ね2月の中から遅ければ新年度から補助が始まる可能性もないわけではありません。

罹れば一定の確率で命を落としたり、障害を残したりする細菌性髄膜炎を起こすインフルエンザ菌、肺炎球菌はどこか特別の場所にいる細菌ではなく、私たちの身の回りにごく普通にいる細菌です。3ヶ月を過ぎる頃から、この2つの細菌が原因の髄膜炎が発症し、それは季節を問わずいつでも起こりうると言われています。10月から、インフルエンザ菌に対するヒブワクチンは潤沢に供給されるようになったため、本来の生後2ヶ月からの接種を今、強く勧めている状態です。肺炎球菌ワクチンも現在のところ供給量には支障がありませんが、補助が始まると一斉に接種希望者が出てくるでしょうから、かえって接種できないという状態になる可能性も十分あります。

あなたのお子さんの命を守るこの2つのワクチンは補助に関係なく積極的に接種してほしいワクチンです。接種料金が低いかも知れませんが、ワクチンがあるのに接種をためらい子供に障害が残った、あるいは命を落としたで悲しむ母の姿をこれ以上は見たくありません。